

## V アンケート結果等

## V-(1) アンケート調査の対象

2013年に開催を予定する第2回あいちトリエンナーレをより良いものとするためには、あいちトリエンナーレ2010の成果の検証が必要である。

このため緊急雇用創出事業基金事業の中で、会期中に来場者へのアンケートを行い、また会期後に、文化芸術関係機関等へのアンケート、経済波及効果及びパブリシティ効果の算出、有識者へのヒアリングといった調査を行った。そのほか、各種メディアに掲載された評価も別途収集し、抽出した。次ページ以降に、その結果の概要を掲載する。

なお、結果の詳細については、あいちトリエンナーレの公式ホームページに掲載している。

調査対象		該当ページ
来場者アンケート	国際美術展来場者(一般 3,781)	82
	劇場公演、まちなかパフォーマンス鑑賞者(1,199)	88
	国際美術展来場者(子ども 1,269)	91
	キッズトリエンナーレ参加者(604)	92
関係者アンケート	長者町関係者(会場提供者等)(23 / 49)	94
	祝祭ウィーク共催事業参加団体等(10 / 16)	96
	ボランティア(330 / 1,616)	97
	パートナーシップ事業参加団体(124 / 495)	100
文化芸術関係機関等アンケート	全国の芸術系教育機関(11 / 47)	101
	県内ギャラリー(31 / 92)	103
	中部芸術文化記者クラブ加盟記者(3 / 24)	105
	県内小・中・高等学校、特別支援学校等(1,030 / 1,606)	106
経済波及効果及びパブリシティ効果		109
専門家	国際的な芸術祭の芸術監督等経験者、大学教授等へのヒアリング及びメディア上の記事収集	110

※カッコ内は、「(回収数)」又は「(回収数/調査対象数)」を意味する。

## V-(2) 来場者アンケート結果

### ■一般来場者(国際美術展)

実施時期	8月22日～10月31日
調査対象	国際美術展への来場者(高校生以上)
配布・回収方法	主要4会場(※)において配布し、同4会場とATカフェに設置した回収箱及び郵送により回収。また、同内容をホームページ上に掲載し、ホームページからも回答できるようにした。
回収数	3,781

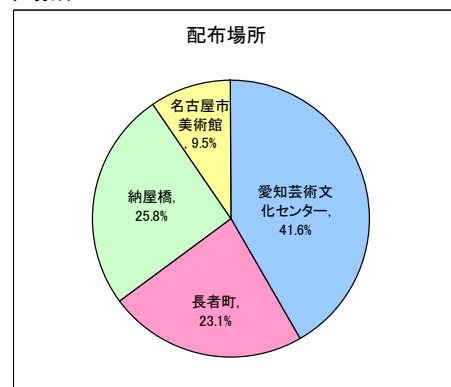
※主要4会場：愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場

### ○属性

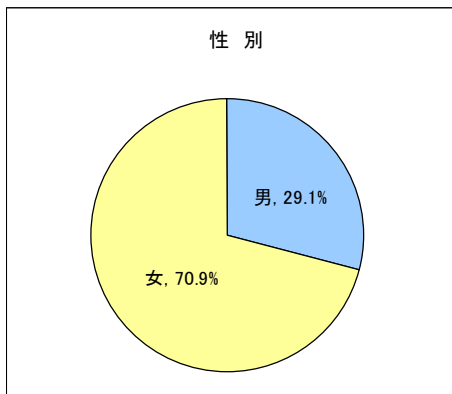
来場者の属性については、42ページにおいても触れているが、性別は、女性が多く、70.9%となった。年代としては、30代以下が60.5%を占め、比較的若い世代の来場が多かったことが分かる。地域別では、名古屋市内、名古屋市を除く県内、県外からの来場者がそれぞれ約3割となっている。県外からの来場者のうち5割は、首都圏及び京阪神からの来場であった。

※グラフ上部のカッコ内は各質問ごとの回答数。以下同じ。

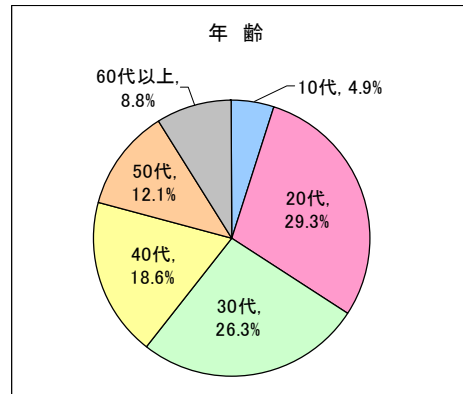
#### ・配布場所



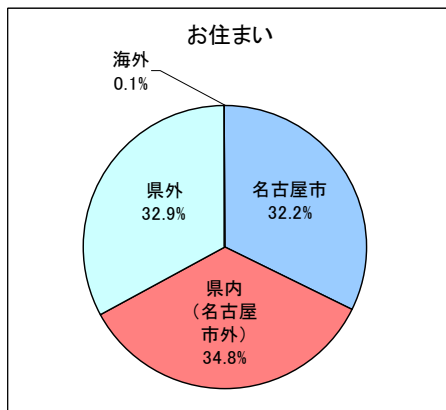
#### ・性別(3,410)



#### ・年齢(3,409)



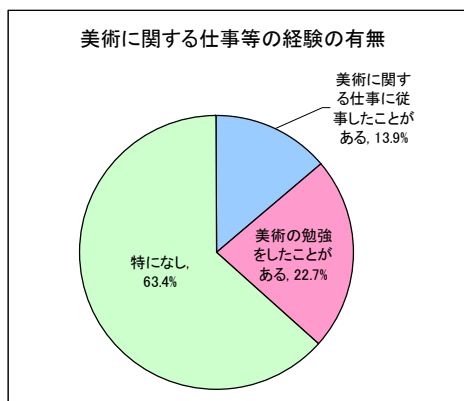
#### ・お住まい(3,308)



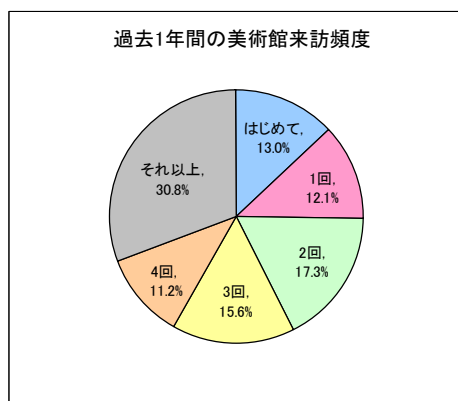
#### ・県外来場者(1,087)

圏域	内訳	割合(%)
首都圏	東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	32.7
京阪神	大阪府 京都府 兵庫県	17.4
東海	岐阜県 三重県 静岡県	33.5
その他		16.4
計		100.0

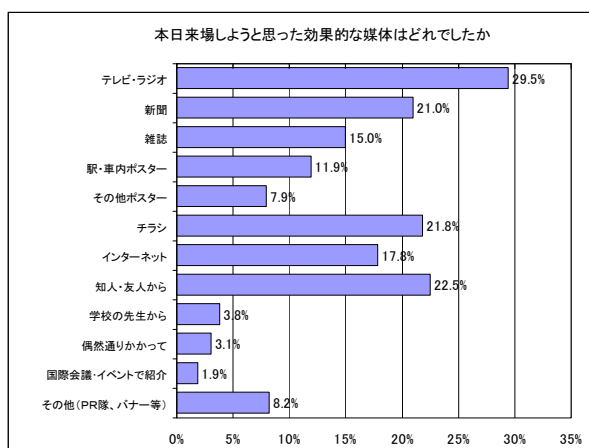
・美術に関する仕事等の経験の有無 (3, 368)



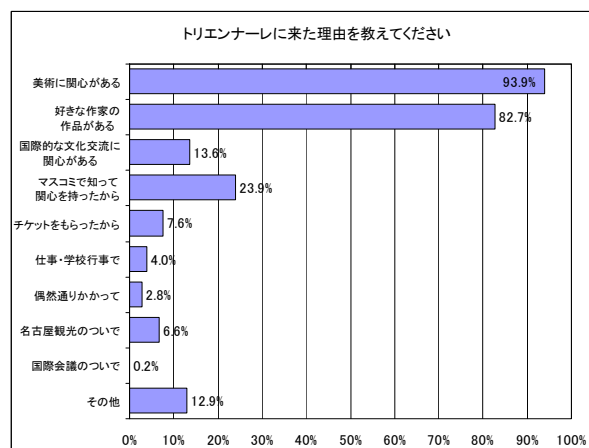
・過去1年間の美術館来訪頻度 (3, 351)



・来場しようと思った効果的な媒体 (5, 889) ※複数回答



・来場の理由 (9, 117) ※複数回答



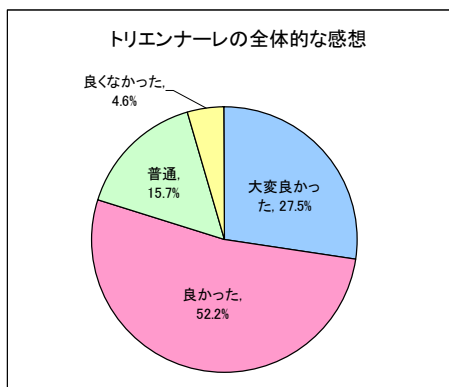
○感想

あいちトリエンナーレ 2010 の全体の感想として、一般来場者のうち 79.7%が、「大変良かった」又は「良かった」と回答している(以下、「大変良かった」「良かった」の合計をカッコ内に記載)。個別の評価として、美術展の展示作品(82.4%)及び美術館や劇場の外で展示や公演があること(81.2%)についても、それぞれ高い評価を得た。

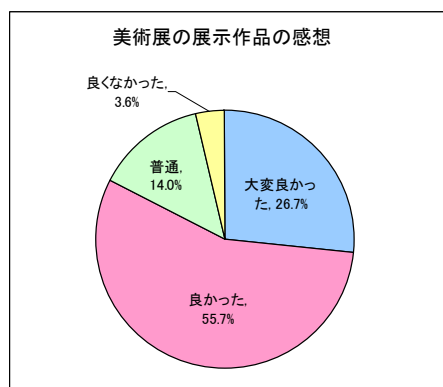
全体的な感想を年代別に見ると、特に 10 代が「良かった」とする比率(90.5%)が高かった。以降、60 代以上(64.3%)に至るまで、年代が上がるにつれその比率は減っている。

面白かった会場を聞いたところ、展示作品が多く、キッズトリエンナーレや劇場公演も催された愛知芸術文化センター(58.9%)が最も多く、長者町会場(31.4%)がそれに続いた。

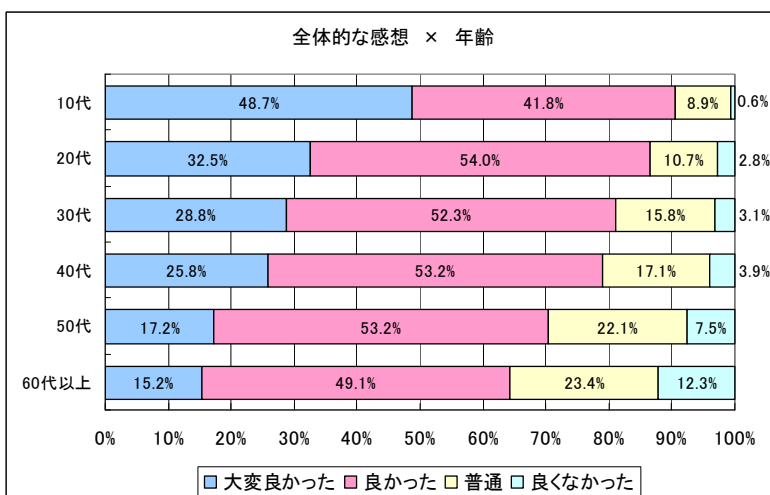
・全体の感想 (3, 581)



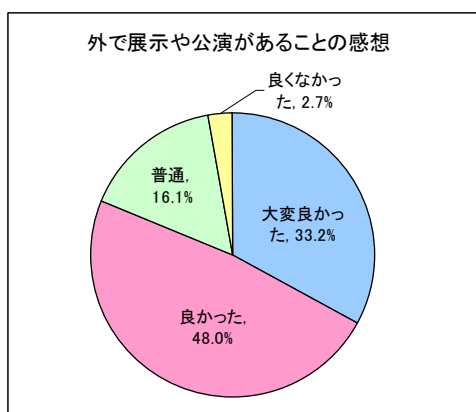
・美術展の展示作品の感想 (3, 680)



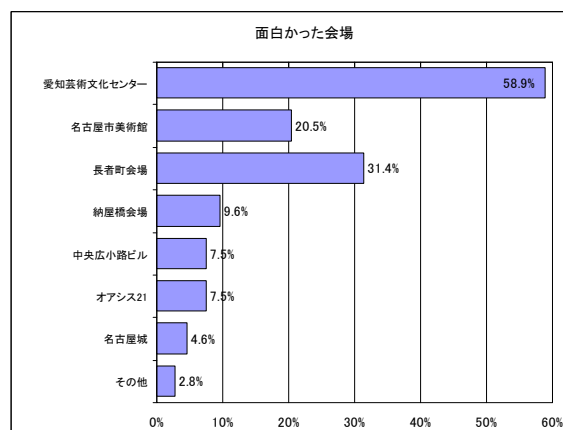
・全体の感想 (年代別)



・美術館や劇場の外で展示や公演があることについて (3, 452)



・面白かった会場 (4, 847) ※複数回答



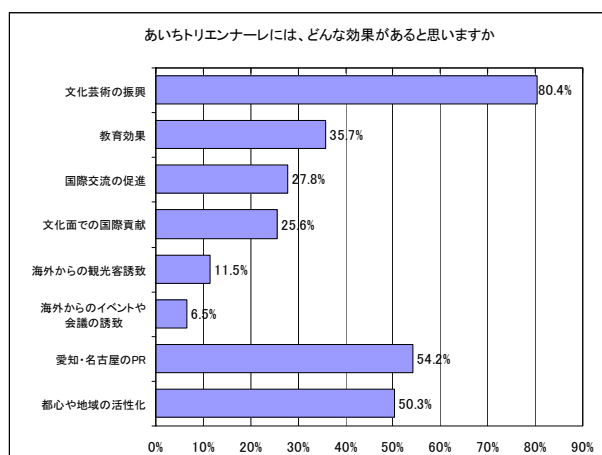
・コメント抜粋

- ・長者町織維会館等、活気にあふれていたと思われる頃の面影を残す建物や、街の雰囲気につれられたのは良かった。
- ・芸術が特別なものではなく、身近な存在であることが、より多くの人に感じてもらえると思います。
- ・美術に関心がない人でも興味がわくと思います。
- ・あいちトリエンナーレを通して、栄・伏見の魅力を感じるとともにアーティストからエネルギーをもらった。愛知県の人々は皆明るく、ハッピーを分けてもらった気がする。
- ・一緒に来た母親との良い思い出ができた。数年ぶりに二人で美術館に来られて、一緒に感動したり、カフェに入ったり買い物もでき、良い一日でした。
- ・名古屋は観光に乏しいと言われるが、このイベントは自信を持って紹介できる。
- ・今までは作家名で美術展に行っていたが、先入観なしで観た作品の中に、面白い表現が発見できた。「食わず嫌い」はやめようと思った。
- ・愛知に「アート」という雰囲気は合わないと思っていた。しかし、今回行って見て、意外と合うかもと思った。なぜなら、愛知には空港も有り、外国からのアクセスがいい。色々な新しいものが見られて、かつ「愛知らしさ」の色が合わさるとすごい力が出ると感じた。
- ・伏見の間屋街で働く人々の中にも、アートに対する関心の高い人もいて、協力的であることを知った。「芸どころ」名古屋ならではの、子供のころから、日常的に何らかの芸術に触れることの大切さを感じた。
- ・難しいと思っていた現代アートでしたが、たまたま参加したガイドツアーでよく理解できて、楽しむことが出来てよかったですし、子供も外国の先端のアート作品に接する機会をもらえてとてもいい経験になりました。ぜひ3年後も開催して欲しいです。あいちトリエンナーレありがとう。

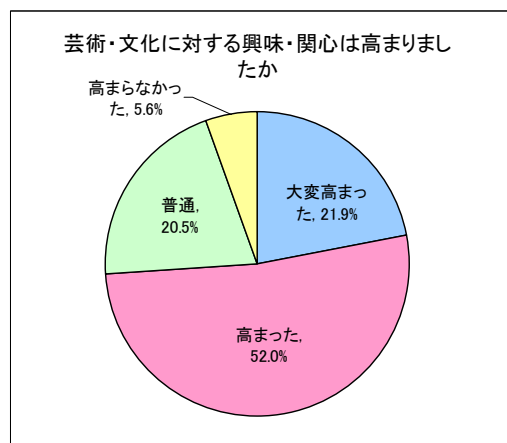
○トリエンナーレの効果等

トリエンナーレにどんな効果があったかを聞いたところ、文化芸術の振興(80.4%)、愛知・名古屋のPR(54.2%)などとなった。また、次回のトリエンナーレに行きたいかどうかという質問については、76.6%が「絶対行く」「たぶん行く」と回答した。

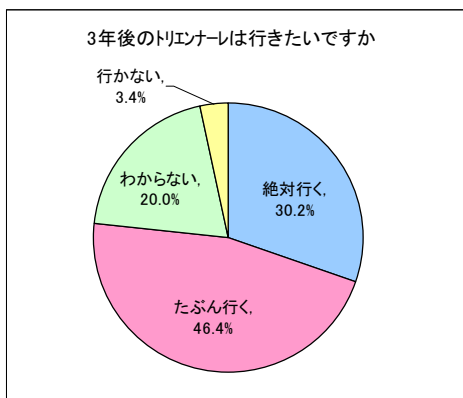
・あいちトリエンナーレの効果(9,654)※複数回答



・芸術・文化に対する興味・関心は高まったか(3,600)



・次回トリエンナーレに行きたいか(3, 458)



・コメント抜粋

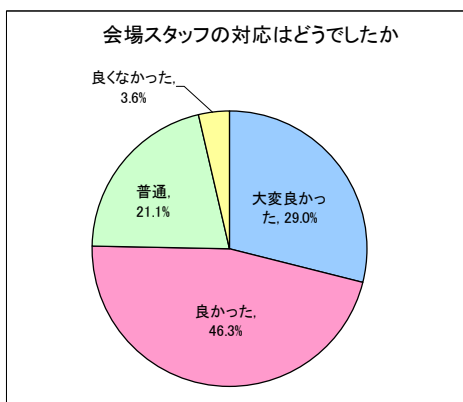
- ・とにかく続けることが大事だと思います。芸術、文化への投資は、真っ先に削られがちですが、それが有効に使われれば非常に大きな効果を生みます。知恵を出し合い、毎回見る人を驚かせる「あいちトリエンナーレ」を開いてください。3回目には都市の文化になります。あとは、より良いサポーターを一人でも育てることでしょうか。
- ・「3年後も愛知にトリエンナーレを」と思い希望を持って毎日を送り、各関係者の方達にありがとうございます。

○運営について(スタッフ、料金)

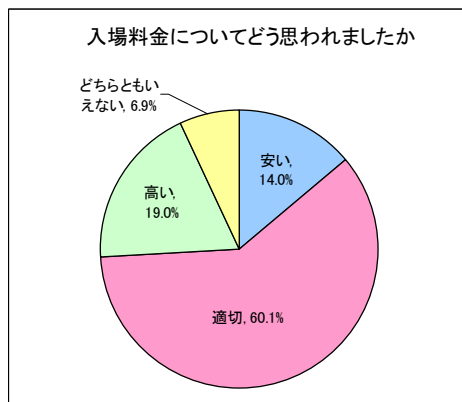
運営面についても、会場スタッフの対応は総じて高い評価(75.3%)が得られ、自由記述欄にも、「スタッフが親切・熱心だった」という記述が、約 170 件見られた。逆に、「スタッフに聞いても知らないということがあり、更に教育が必要である」といった意見も約 160 件あった。スタッフの習熟が進んだ会期後半にはそうした意見は減っている。

入場料金については、「適切」との回答が 60.1%であった。

・会場スタッフの対応(3, 628)



・入場料金(3, 606)



・コメント抜粋

(スタッフについて)

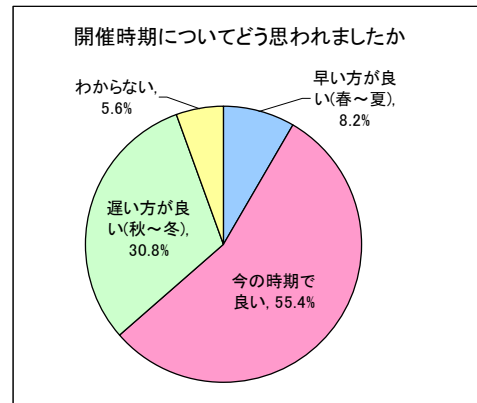
- ・ボランティアで活躍されている方々の素晴らしい対応に、本当に感謝。次回のトリエンナーレでは自分も何か協力してみたい。
- ・スタッフ、ボランティアの対応は良いが、トリエンナーレの事をあまり知ってなくて意外でした。
- ・スタッフや関係者の人が親切で良かった。すごく楽しかったです。ありがとうございました！！
- ・ボランティアさんにしっかりしたマニュアルがあるといい。ボランティアの方でいいかげんな対応の方もいました。一方、大変良くして下さる方もいました。

## ○運営について(開催時期、会場等)

開催時期については、「今の時期でよい」との回答が 55.4%、次いで、「遅い方がよい(秋～冬)」との回答が 30.8%であった。自由記述欄においては、「暑い、時期を変更してほしい」という意見が約 130 件あった。長者町会場等の屋外を歩く会場があった中で、平成 22 年の夏の平均気温は、統計の存在する 113 年間で最も高く(気象庁発表による)、歴史的な酷暑であったことが影響していると考えられる。これに関連して、自由記述欄には、「会場が分散していて不便、コンパクトにして欲しい」という意見が約 50 件あった。一方で、「あいちトリエンナーレなのだから名古屋以外でも開催すべき」という意見も、約 20 件あった。

その他自由記述欄において多かった意見としては、「認知度が低い、PR にもっと力を入れるべき」(約 220 件)、「会場そのものや、案内表示、地図等が分かりにくい」(約 200 件)という意見もあった。また、会期中途から順次掲示していったが「作品の見方、説明や作者のコメントなどが欲しい」(約 110 件)などがあった。なお、ベロタクシーは好評であり、約 80 件の評価する意見があった。

・開催時期 (3, 597)



### ・コメント抜粋

#### (開催時期)

- ・とにかく暑かった。街中のモノは歩いて回ってみるので、今回はあきらめました。軽く歩いて温くなるような季節の方が・・・と思いました。
- ・期間中はできたら休館日をなくして、主要な会場は OPEN して欲しい。

#### (会場)

- ・会場が数か所に分散していて見て回るのに時間がかかり効率が悪い。会場は一か所かせいぜい二か所にまとめた方が、疲れも少なくて良い。
- ・同じチケットで入場できる会場を名古屋以外にも設定したほうが、あいちトリエンナーレらしいのではないのでしょうか？その地域の活性化にもつながると思います。

#### (会場の案内、地図)

- ・長者町会場の展示場所がハッキリしない。入口にのぼり等立ててほしい。日曜日に参加したが、閉まっている会場が多くあった。
- ・ガイドブックがなくても、だいたい分かるようにしてほしい。入場のシステム(チケットの有無、有料、無料)や場所も分かりにくい。
- ・ポケットマップでの地図をもう少し詳細にしていただけると迷いにくいと思います。(会場以外の建物名をもう少し記入してもらおうなど)。公式ホームページで得られる情報が少なかった。来てみないとわからないことが多かった。

#### (PR)

- ・もっと認知度があがるとよい。TV での PR などをもっとするとか。
- ・もっと PR をした方がよい。もっとたくさんの人に参加してもらいたい。

#### (作品の説明)

- ・写真撮影ができれば良い。絵画等の説明がキャプションに少しあると良いと思う。
- ・ひとつひとつの作品に解説がほしい。わからない作品が多い。

#### (ベロタクシー)

- ・ベロタクシーが良かった。もう少し台数を増やせば移動に使いやすくなる。
- ・街中のイベントを増やしてください。ベロタクシーとプリウスに乗りました。楽しかったので、ああいう形のサービス続けて下さい。



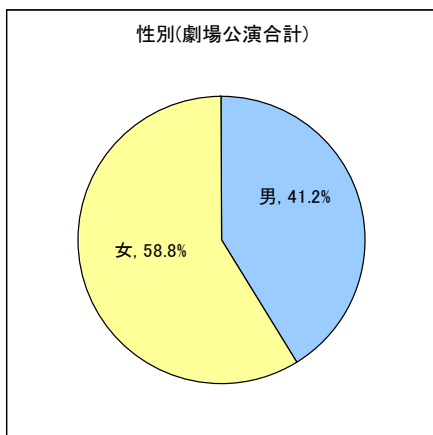
■一般来場者(劇場公演及びまちなかパフォーマンス)

実施時期	8月21日～10月31日(各公演・プログラム開催日)
調査対象	劇場公演及びまちなかパフォーマンスへの来場者
配布・回収方法	各公演・プログラムの来場者に配布し、会場にて回収
回収数	劇場公演計920、まちなかパフォーマンス計279

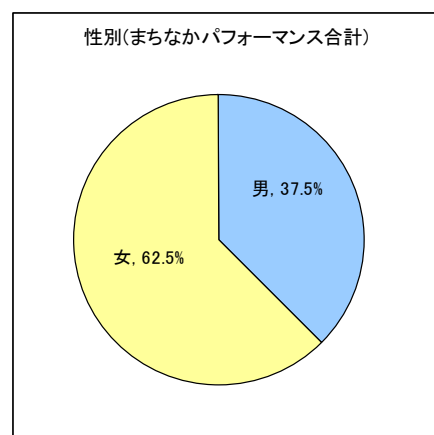
劇場公演及びまちなかパフォーマンスについては、プログラムごとにアンケート調査を行ったが、調査を行った全公演・プログラムの合計によって全体の傾向を見ると、催しについての感想を聞いた質問では、「大変良い」と「良い」を合わせて劇場公演は90.8%、まちなかパフォーマンスは95.8%となり、大変好評であった。

鑑賞した動機としては、劇場公演では、「出演者(アーティスト)又は作品に興味・関心があったから」が80.4%であり、続いて、「現代美術を含めたトリエンナーレの催しに関心があったから」が35.5%となった。まちなかパフォーマンスでは、「トリエンナーレの催しに関心があったから」が61.6%であり、続いて、「アーティストに関心があったから」が41.9%、「作品に関心があったから」が34.4%となった。

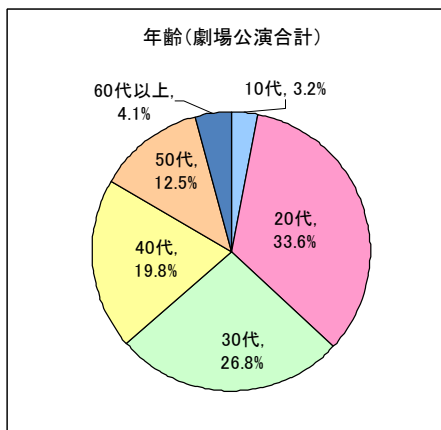
・性別・劇場公演(696)



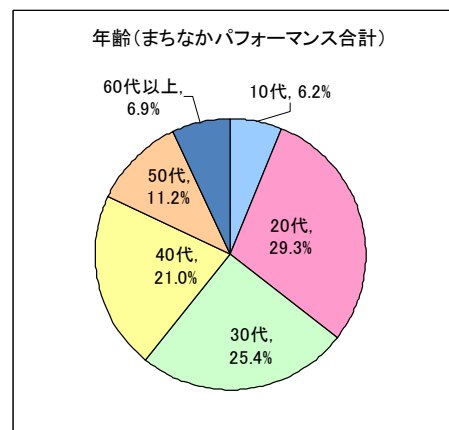
・性別・まちなかパフォーマンス(184)



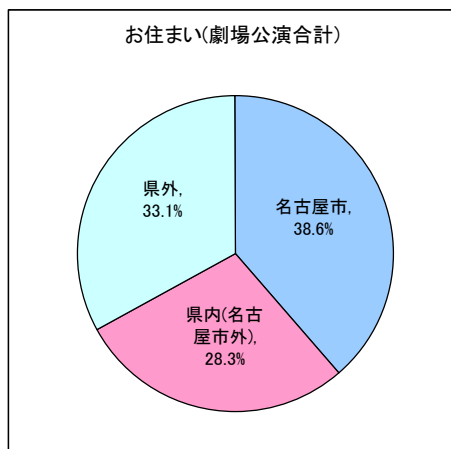
・年齢・劇場公演(881)



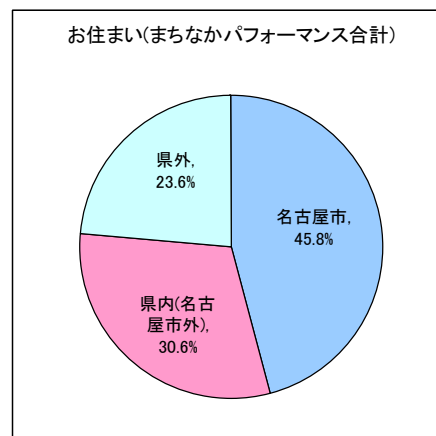
・年齢・まちなかパフォーマンス(276)



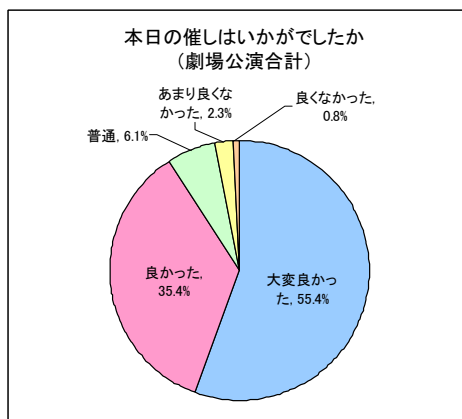
・お住まい・劇場公演 (878)



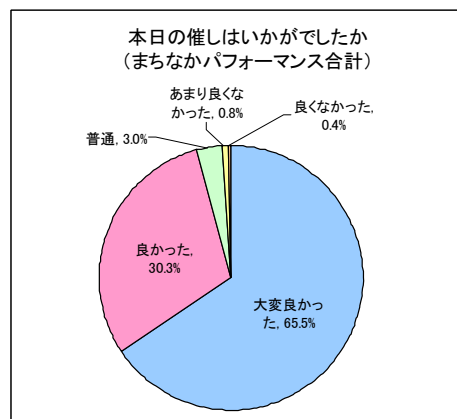
・お住まい・まちなかパフォーマンス (275)



・本日の催しについて・劇場公演 (848)

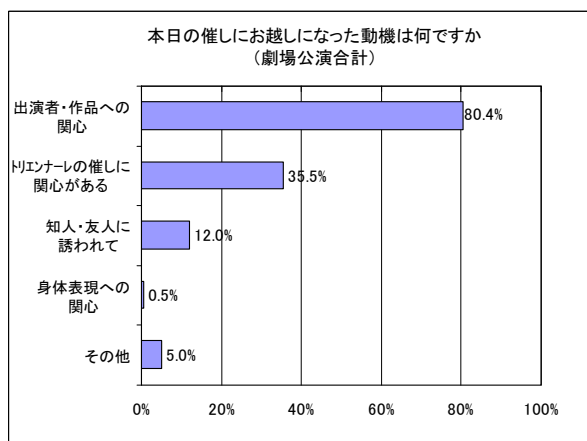


・本日の催しについて・まちなかパフォーマンス (261)



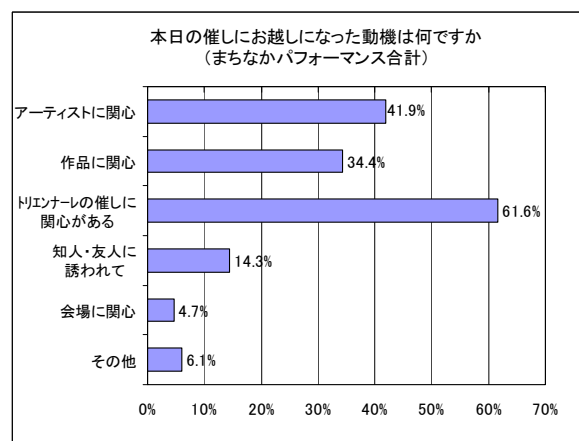
・鑑賞した動機・劇場公演 (1, 228)

※複数回答



・鑑賞した動機・まちなかパフォーマンス (455)

※複数回答



## ・コメント抜粋

### (劇場公演)

- ・初めて見たのですが、内容難しかったです。でも、見やすいと思いました。ロボットにあまり違和感を感じない気もしましたが、独特の言い回しなどロボットだからこそ笑いが起きるといふこともあるのだと思いました。(平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学)「ロボット版『森の奥』」)
- ・1作目は、映像と動きの錯覚がスゴイ！！と思いました。2作目は、動きがすごく早くてびっくりしました。(梅田宏明「Adapting for Distortion / Haptic」)
- ・遠方からでは日帰りか1泊が限度です。1日に2演目(例えばダンスと演劇)を見られるようなプログラムを組んでもらえるとありがたいです。(ヤン・ファーブル「Another Sleepy Dusty Delta Day~またもけだるい灰色のデルタデー」)
- ・すごく間が多く、舞台の雰囲気と言葉によって作られるイメージと自分のイメージがぶつかって(いい意味で)色んな事が頭の中で起きました。面白かったです。ありがとうございました。(チェルフィッチュ「わたしたちは無傷な別人である」)
- ・一列目でみさせていただきましたが、アンドロイドがまばたきしてこちらを見ていると本当の人間に見つめられている気がしました。平田さんと石黒先生にはロボット演劇の最先端を走り続けて、また愛知にもってきてほしいです。(平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学&ATR 知能ロボティクス研究所) アンドロイド演劇「さようなら」)
- ・ものすごいエネルギーを感じた。クラシックがルノアールとかだったら、この演技はピカソのようなデフォルメの中に深い何かが潜んでいるような不思議な世界を思わせるものだった。(ニブロール「THIS IS WEATHER NEWS」)
- ・ローザスの公演をあいちトリエンナーレでやって頂いてよかった。今日は見に来る予定ではなかったが、急遽当日券に並んで、見られたのでより楽しめた。ドライアップシートも楽しみです。トリエンナーレ、3年後もいい公演を期待します。(ローザス「ローザス・ダンス・ローザス Rosas danst Rosas」)
- ・作者の身体と言葉に対する考えを伺うことができ、有意義だった。(ヤン・ファーブル公演関連企画「カンパニーメンバーによるワークショップ」)
- ・やはりマーラーは眠たくなってしまふ。しかし、ピアノだけを伴奏にアンヌ・テレサが歌い始めると、目が離せなくなりました。アンサンブル・イクトウスの演奏は贅沢な捨て駒のようで、それがあから最後の一よぼさが気にならない。(アンヌ・テレサ・ドウ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトウス「3Abschied ドライアップシート(3つの別れ)」)

### (オペラ「ホフマン物語」)

- ・この大ホールで回転舞台装置をフルに使ったオペラは初めてではないか！！
- ・メトロポリタンオペラで観た時と、優るとも劣らないすばらしい舞台で感動しました。衣裳、装置、合唱、ソロともなかなかそろわず、日本では滅多に上演されない演目だけに希少価値で、新幹線代を使っても来てよかったです。

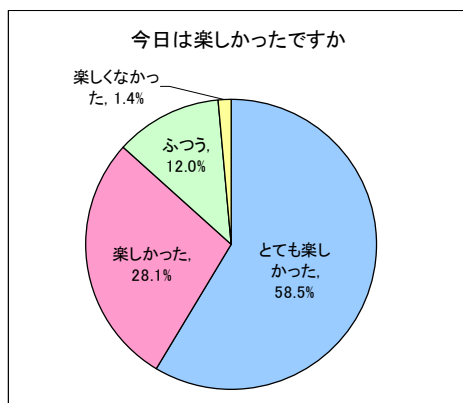
## ■子ども (国際美術展)

実施時期	8月22日～10月17日
調査対象	学校向け教育プログラムに参加、又は国際美術展に来場した子ども(中学生以下)
配布・回収方法	学校向け教育プログラム参加校を抽出し、参加した児童・生徒に対し配布・回収した。また、主要4会場においてヒアリングを行った
回収数	1,269

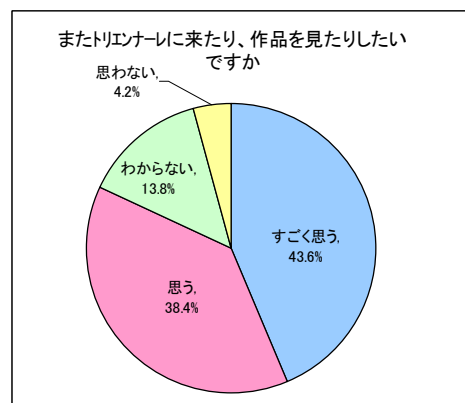
子どもたちの86.6%が「とても楽しかった」又は「楽しかった」と答え、また、82.0%がまたトリエンナーレに来たり作品を見たりしたいと「すごく思う」又は「思う」と答えている。

良かった作品としては、愛知芸術文化センターに展示された三沢厚彦+豊嶋秀樹の作品(「木のできた動物が面白かった」等)、曾建華(ツァン・キンワ)の作品(「文字が動く床が面白かった。文字が自分に映るのが面白い。」等)などが挙げられた。

### ・今日は楽しかったか(1,262)



### ・またトリエンナーレに来たり、作品を見たいか(1,257)



### ・コメント抜粋

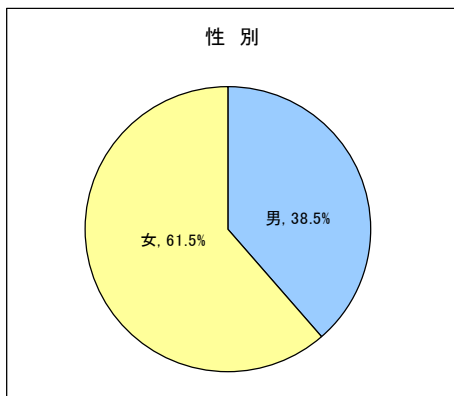
- ・美術館はいつも疲れるけどトリエンナーレは疲れなかった。楽しかった。
- ・木のできた動物が面白かった。
- ・文字が動く床がおもしろかった。文字が自分にうつるのがおもしろい。
- ・自分でも作ってみたいと思った。
- ・よく分からないものが多かった。
- ・芸術に興味はなかったけど、トリエンナーレに来てすごく興味が沸いた。
- ・いつも本で見る作品より、ここで見た作品は迫力があって面白かった。
- ・大人向けのやつがいっぱいあったけど、体験や見れたりして楽しかった。
- ・かぼちゃの作品がよかった。水玉がきれいだった。へちまみたいな大きなのも、ビックリしたよ!
- ・『動物と山』いっぱい動物が出てきて、よかった。いろんな所に隠れていたりして。『ヒーロー』悲しい顔していて、印象的だった。11Fのお花畑は、いっぱいお花があってよかった。
- ・初めて本格的な芸術作品が見られてよかったです。見方を変えてみれば違う絵にもなるとかおもしろい作品などとてもよかったです。
- ・純白のドレスがよかった。

## ■キッズトリエンナーレ

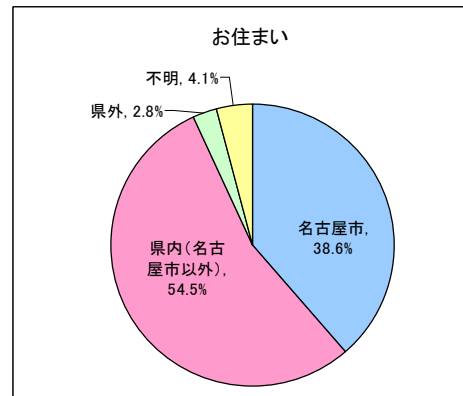
実施時期	8月22日～10月23日
調査対象	キッズトリエンナーレ参加者
配布・回収方法	キッズトリエンナーレ会場において配布し、その場で回収
回収数	604

国内初の取組であるキッズトリエンナーレには、2万人を超える参加者があり盛況だった。アンケートにおいても、参加者の93.8%が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した。また、これからも自分で絵を描いたり、ものを作ったりしようと思うか聞いたところ、91.4%が「すごく思った」「思った」と答えている。

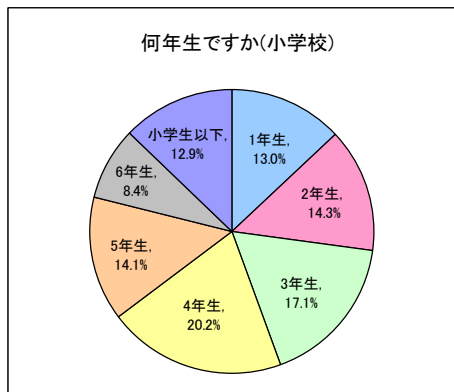
### ・性別 (603)



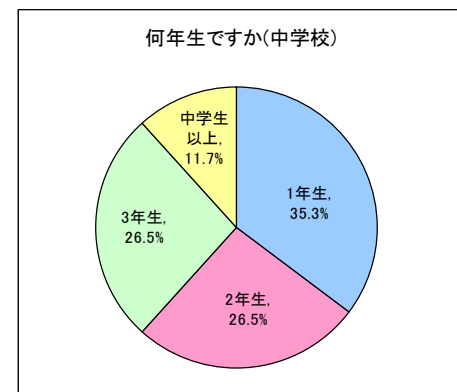
### ・お住まい (604)



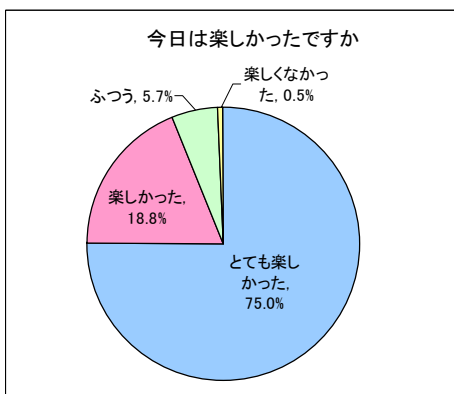
### ・学年・小学校 (560)



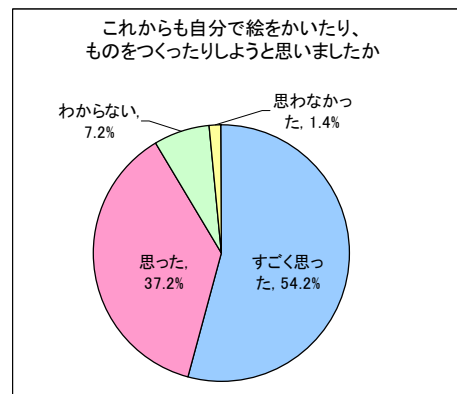
### ・学年・中学校 (34)



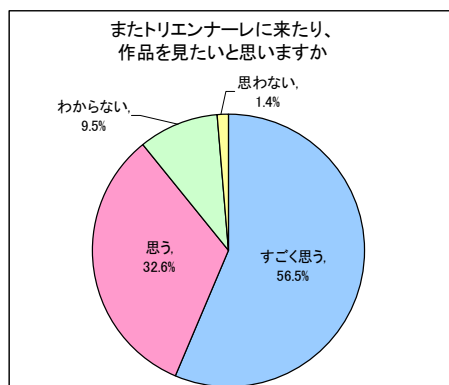
### ・今日は楽しかったか (595)



### ・これからも創作しようと思うか (594)



・またトリエンナーレに来たいか (598)



・コメント抜粋

(子どもの意見)

- ・最初はこんなこと本当にやっていいの?と思ったけど、やってみると、すごく楽しかった。
- ・とても楽しかった。お母さんに作品を見せたいです。
- ・とてもきれいな作品ができ、いろいろなアイデアがでて楽しかった。
- ・テープをグルグルするのが楽しかったです。手に絵具を付けて、友達と握手するのが、気持ち悪かったけど、楽しかったです。
- ・人の体を描く時が面白かった。
- ・みんなで協力できた。楽しかった。
- ・友達ができてうれしかった。
- ・色を混ぜると、違う色ができて不思議だった。

(保護者の意見)

- ・スタッフの方に大変お世話になりました。楽しい雰囲気があってよかった。
- ・一人で知らない子どもと時を過ごすのは初めての体験。2時間泣かずに「楽しい」と言って参加できた事が、一番の経験になった。
- ・途中でぐずるかなと心配しましたが、絵具でぬる時はキャーキャーと楽しんでいました。母も楽しく参加でき、よかったです。ありがとうございました!

## V-(3) 関係者アンケート結果

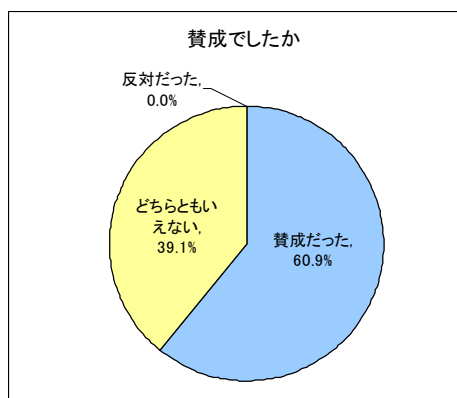
### ■長者町

実施時期	12月		
調査対象	長者町関係者(会場提供者等)		
配布・回収方法	郵送		
回収数(回収率)	23 (46.9%)	配布数	49

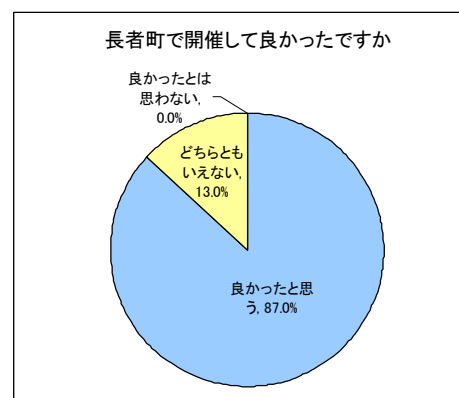
会場提供等で協力して下さった長者町関係者にアンケート調査を行ったところ、開催前にトリエンナーレの開催に賛成だったのは60.9%だが、開催後に開催して良かったとする回答は87.0%に向上している。また、トリエンナーレの総合評価(「大変良い」「良い」を合わせて87.0%)。以下カッコ内について同じ)、長者町が賑わったと思う(95.6%)、トリエンナーレは長者町の活性化や好ましい意識の変化に貢献したと思う(82.6%)とも、高い評価となった。長者町関係者から見て、ボランティアスタッフの対応も良かったと見られている(91.3%)ことも分かる。

なお、自由記述欄においては、「長者町の活性化ができ、町の方々が前向きになれた」「長者町と無関係であった人々との出会いや繋がりが生まれた」との意見も見られた。

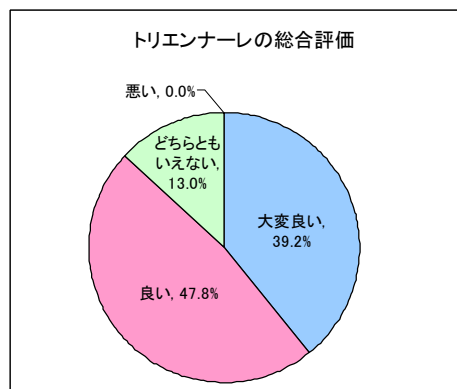
#### ・長者町での開催に賛成だったか(23)



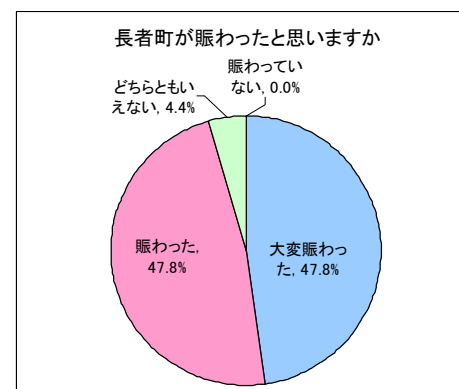
#### ・現在、開催して良かったと思うか(23)



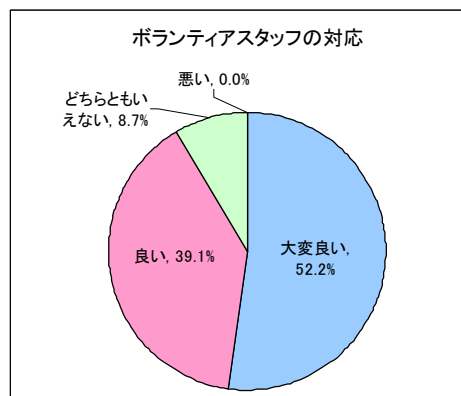
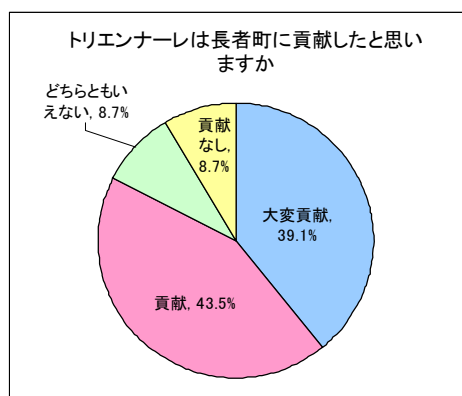
#### ・トリエンナーレの総合評価(23)



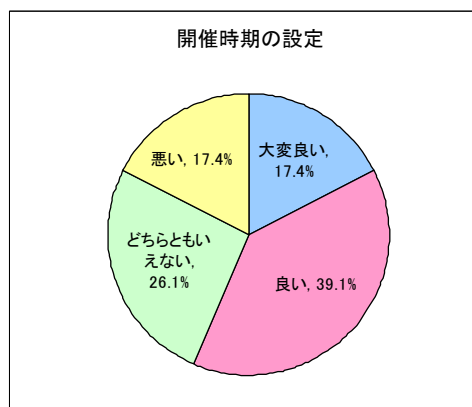
#### ・長者町が賑わったと思うか(23)



- ・ 長者町の活性化や、好ましい意識の変化に貢献したか (23)
- ・ ボランティアスタッフの対応 (23)



- ・ 8~10月という開催時期について (23)



#### ・ コメント抜粋

- ・ アートの気運を高め、長者町の活性化ができた。町の方々が前向きになれた。
- ・ 特に10月はすごい賑わいだった。商業的な損得ではない、美術、芸術、パフォーマンスの価値と、長者町で行われたことで、シナジー効果がアップした。
- ・ 芸術を楽しむ人々がたくさんいて、名古屋のインテリジェンスを感じました。アートが好き=おしゃれということも感じました。
- ・ 街づくりの方向性がわかったのではと思う。
- ・ 日頃来ない客層だった。町自体が賑わっていたが、終わると元通りで残念。
- ・ 1つの会場ではなく、いくつかの会場に分かれていたことで、街全体で取り組んでいる様子が伝わってきた。
- ・ 長者町地区での展示で、長者町と無関係であった人々との出会いや繋がりが生まれた。町の人々が期間中の来場者の多さに何かを感じ始めた事と、新たな活動に向けて動き始めた事を感じた。
- ・ 8月は暑すぎます。9~11月にすべき。
- ・ 予算を13億円掛けたというが、それに見合う価値は誰の評価なのか。お金を掛けすぎではないか、と思った。
- ・ 告知の方法。トリエンナーレの存在すら知らない人が多かった。
- ・ 街での展示場所を一層わかりやすくすべき。入場料、日時、入場無料などがわかりにくかった。
- ・ もう少し会場をまとめて小さくして下さい。



## ■祝祭ウィーク共催事業

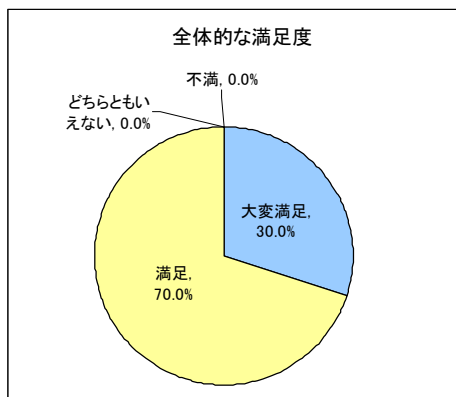
実施時期	12月		
調査対象	祝祭ウィーク共催事業参加団体等		
配布・回収方法	郵送又はファックス		
回収数(回収率)	10 (62.5%)	配布数	16

祝祭ウィーク(10月11日～17日)における公募共催事業では、約1万8千人の観覧者があったが、その主催者16団体・個人にアンケート調査を行った。「全体的な満足度」は、すべての団体等が「大変満足」又は「満足」とした。また、来場者の反応は良かったかとの質問に対しても、すべての団体等が「大変良かった」又は「良かった」と回答し、「次回のトリエンナーレにおいて公募・選考による共催事業があれば、参加しようと思うか」という質問に対しても、「参加しない」という回答はなかった。

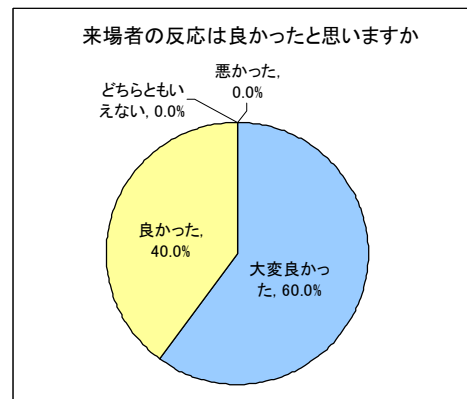
自由記述欄では、「会場、施設の全てを提供していただけたことで、その経費を他の部分に存分に充てることができたので豊かな気持ちで思い切り作品に思いを費やすことができた」、「共催事業となったことで、今まで興味のなかった方も来られた」等の意見があった。

改善すべき点として自由記述欄に記載された意見は、「同じ日に3会場全て同ジャンル(ダンス)の舞台があったりすると、特に関係者はどれを選択すれば良いか、見に行くのが困難だと思う」など、公演スケジュールに関するものが目立った。

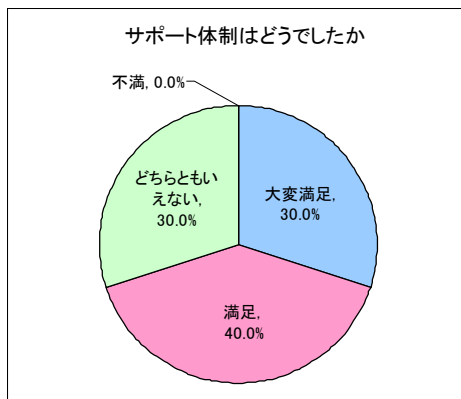
### ・全体的な満足度(10)



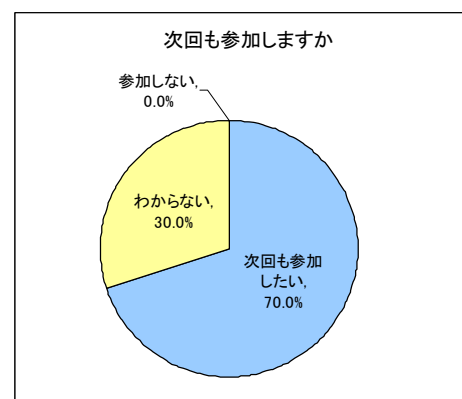
### ・来場者の反応(10)



### ・実行委員会のサポート体制(10)



### ・次回も参加したいか(10)



・コメント抜粋

- ・美術に関心のある人々が、演劇に興味を持つ良いきっかけになったと思います。ヴィジュアル・アーツとパフォーマンス・アーツが、同じ芸術分野として繋がり、広がりを感じました。
- ・会場、施設の全てを提供していただいたことで、その経費を他の部分に存分に充てることができたので豊かな気持ちで思い切り作品に思いを費やすことができた。
- ・祝祭ウィーク共催事業となったことで、今まで興味のなかった方も来られました。
- ・演劇に振り分けられたのが2日間しかなかった点。結果1回しか公演ができなかったため、長く使えるような期間の考慮をお願いします。
- ・なるべく多くの団体を取り上げるという意味では、一週間、芸術文化センターの施設を目一杯使用したことは有意義だったとは思いますが、一晩に2、3公演が同時にある日に当たった団体は、集客に苦労されたかもしれません。
- ・1週間で3会場での公演開催は、観客にとっては少しきつかったことと思いますし、同じ日に3会場全て同ジャンル(ダンス)の舞台があつたりすると、特に関係者はどれを選択すれば良いか、見に行くのが困難だと思うので、公演日を決定する際、内容もきちんと把握して振り分けてほしい。
- ・今回は初めてということで認知度はまだまだ低かったと思います。万博時のような、地下鉄栄駅構内、オアシス等一般の方が集まる場所にポスターなどで「何だ?」と思わせるような工夫が欲しい。

■ボランティア

実施時期	12月		
調査対象	ボランティア(プレイベント含む)		
配布・回収方法	郵送、メール又はファックス		
回収数(回収率)	330(20.4%)	配布数	1,616

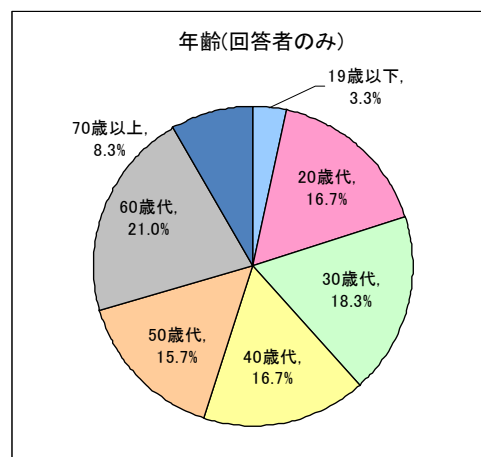
○属性

本芸術祭のボランティアのうち、ボランティア活動経験者が69.8%あり、以前にどのようなボランティア活動に従事したか聞いたところ、2005年の愛・地球博(愛知万博)が49.3%あった。

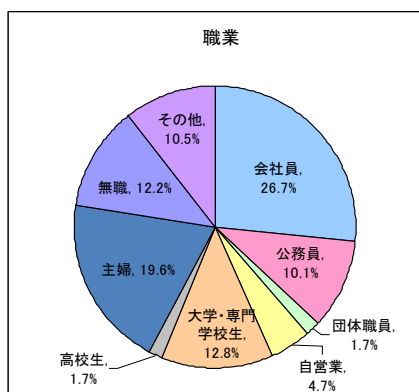
本芸術祭のボランティアに参加した理由としては、「あいちトリエンナーレに興味」(68.0%)、「現代芸術に興味」(56.1%)、「ボランティア活動に興味」(49.4%)の順で多くなっている。

・年齢(300)

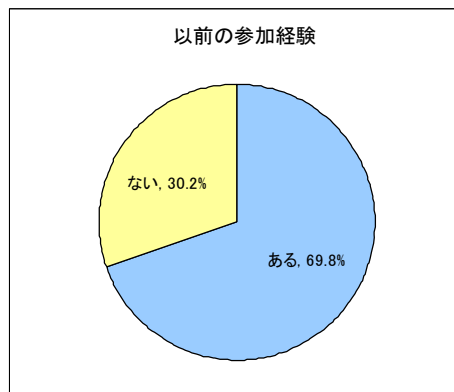
※アンケート回答者のみの年齢。参加者全体の年齢は、58ページを参照



・職業 (296)

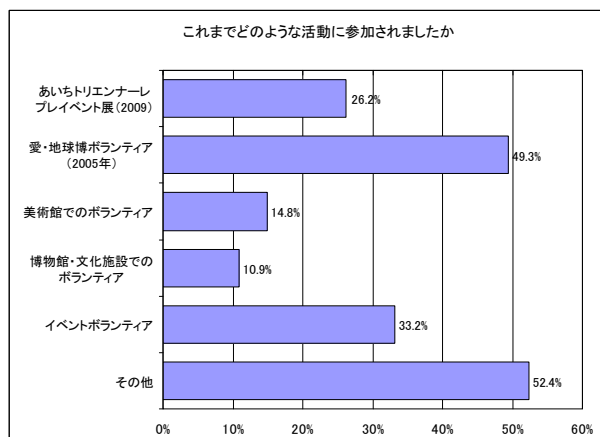


・ボランティア活動参加経験 (328)



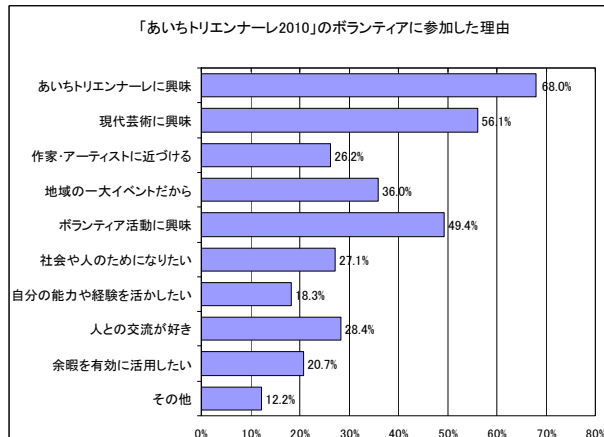
・これまでの活動経験 (428)

※複数回答、活動経験者のみ



・参加理由 (1,123)

※複数回答

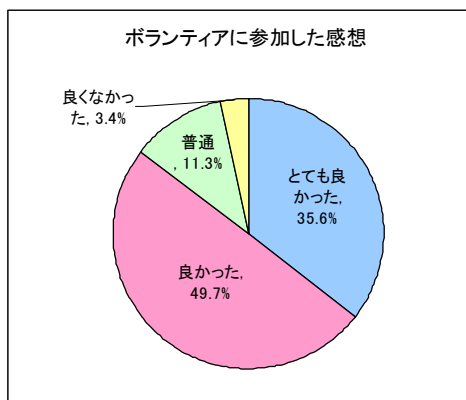


○感想

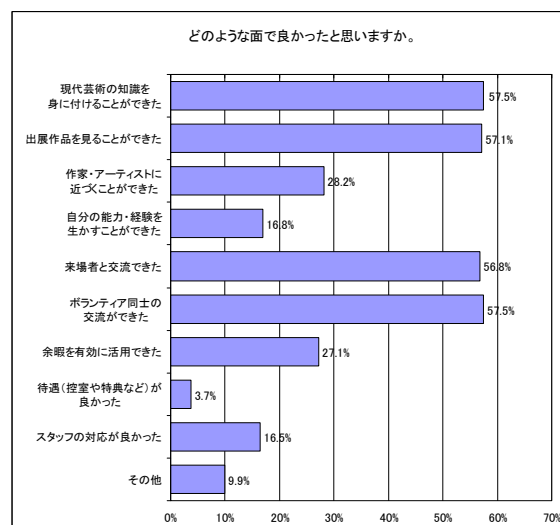
ボランティアに参加して「とても良かった」「良かった」という回答は、85.3%にのぼった。その理由として、「現代芸術の知識を身に付けることができた」(57.5%)「出展作品を見ることができた」(57.1%)という文化芸術の普及啓発面での理由が、それぞれ6割近くとなった。また、「来場者と交流できた」(56.8%)「ボランティア同士の交流ができた」(57.5%)という、地域における人と人とのつながりに関する理由も、やはり6割近くとなった。

次回のあいちトリエンナーレなど、今後このような芸術イベントにボランティアとして参加したいか聞いたところ、「参加したい」「参加を検討したい」とを合わせると87.3%となった。

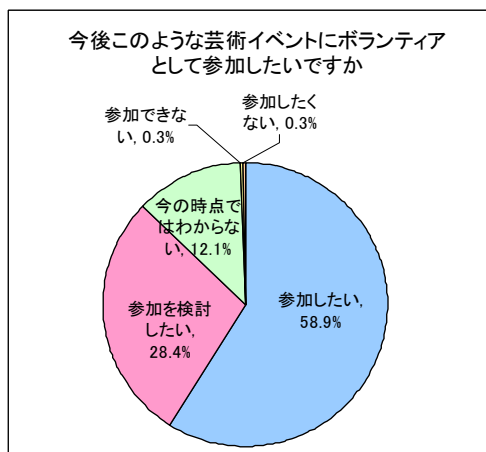
・参加の感想 (320)



・どのような面で良かったか (904) ※複数回答



・今後参加したいか (321)



・コメント抜粋

- ・スタッフ、アーティスト、キュレーター、ボランティア、お客さん等、普段関わることのないたくさんの人たちと交流でき、とても楽しく充実した活動となりました。
- ・楽しく活動させていただき、とてもいい経験になりました。
- ・貴重な経験ができてよかった。仕事の都合もあり、延べ6日間であったが、楽しく参加させていただいた。
- ・ガイドツアーを担当しましたがとても満足しています。人とのコミュニケーションが出来たことと、アートそのものについても、とても楽しむことが出来ました。
- ・3年後のあいちトリエンナーレでも、ボランティア活動にまた申し込もうと思っています。この事業を継続して、もっと、さらにおもしろいものにして欲しいです。
- ・長者町会場ばかりを担当することになり、人員配置に偏りがあるように感じました。
- ・後半は COP10 のボランティアと重なったせいか、ボランティアが少なかったようで残念でした。後半になるほどお客様も増えて、ゆとりがなかった感じがします。ボランティアが自らやりたい場所を選べると、もっと色々勉強できて、内容が充実できたように思います。
- ・活動内容があらかじめ分かる範囲で提示されていて、こちらから活動を選ぶという形をとったほうが、もっと自分の能力を生かしたような気がします。その方がドタキャンをする人も少なかったのではないのでしょうか？ボランティアも責任あるスタッフの一員なので、もう少し研修の機会を設け、有償スタッフを雇うのではなく、ボランティアスタッフに任せて欲しいと思う場面が多々ありました。

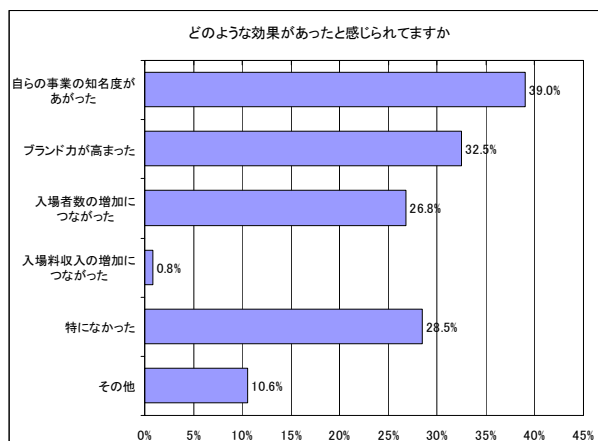
## ■パートナーシップ事業

実施時期	12月		
調査対象	パートナーシップ事業参加団体		
配布・回収方法	郵送又はファックス		
回収数(回収率)	124 (25.1%)	配布数	495

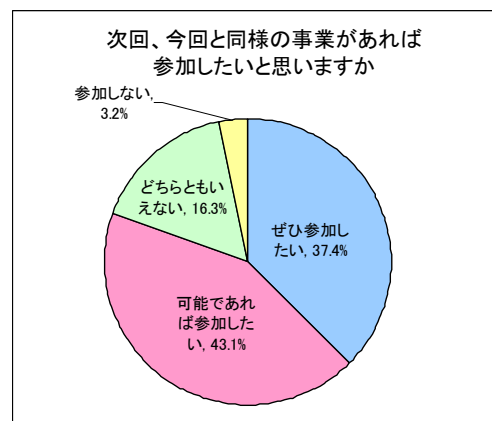
パートナーシップ事業に参加した団体に対するアンケート調査では、「自らの事業の知名度が上がった」(39.0%)、「ブランド力が高まった」(32.5%)、「入場者数の増加につながった」(26.8%)といった効果があったとの回答があった。一方、効果は「特になかった」という回答も28.5%あり、効果の認識にはばらつきが見られた。

次回、今回と同様のパートナーシップ事業があれば参加したいと思うか聞いたところ、80.5%の団体が参加したいと考えていることが分かった。

### ・どのような効果があったか(170)※複数回答



### ・次回も参加したいと思うか(123)



### ・コメント抜粋

- ・トリエンナーレですので2013年も必ず開催してください。その際にもぜひ参加します。
- ・アートに関心のある人からは好評だったようだが、そうでない人にとっては「現代アート＝分かりにくい」というイメージを覆すまでには至らなかった。アートの固定観念をひっくり返すような企画があればもっと間口が広がると思う。そういう点からも長者町は面白かった。アートと日常の境をなくすような街の中に溶け込んだ展示や取り組みは作家や取り巻く人たちの息づかいを感じられた。
- ・2013年楽しみにしています。
- ・不況といわれる最中に、名古屋発信で何か「動き」を感じる事が出来ました。次回も是非よろしく願います。
- ・参加団体に共通のフラッグを配布するなど、もっと派手に盛り上がる材料があるといいと思います。
- ・国際展としては規模の大きなものではなかったように思いましたが、その大きくないことがあいちトリエンナーレの独自性となったように感じました。具体的には、地域との密着性、いわゆるビッグネームではない作家の多用などです。次回のあいちトリエンナーレ2013では、そういった部分をより深め、さらに独自の方向性を持ちながらも排他的にはならないお祭りになることを期待します。

## V-(4) 文化芸術関係機関等アンケート結果

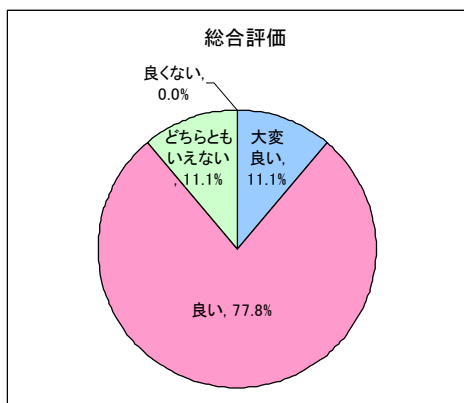
本芸術祭について客観的な意見等を聞くため、全国の芸術系教育機関(美術大学長等)、県内のギャラリー及び中部芸術文化記者クラブ加盟記者に対してアンケート調査を行った。また、現代芸術等の普及・教育が、本芸術祭の開催目的の一つであることから、学校向け教育プログラムに参加したかどうかに関わらず、県内の小・中・高等学校、特別支援学校等にも、アンケート調査を行った。

### ■ 芸術系教育機関

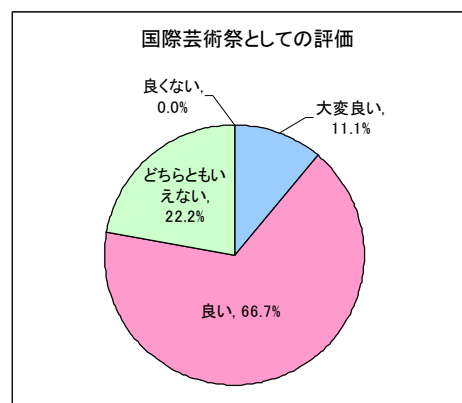
実施時期	12月		
調査対象	全国の芸術系教育機関(美術大学長等)		
配布・回収方法	郵送		
回収数(回収率)	11 (23.4%)	配布数	47

総合評価(「大変良い」「良い」を合わせて88.9%)を始めとして、芸術の普及啓発に貢献したかという質問に対しては全員が貢献したと回答するなど、概ね高く評価された。

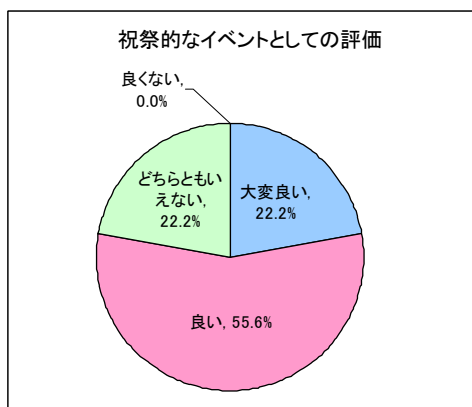
#### ・トリエンナーレの総合評価(9)



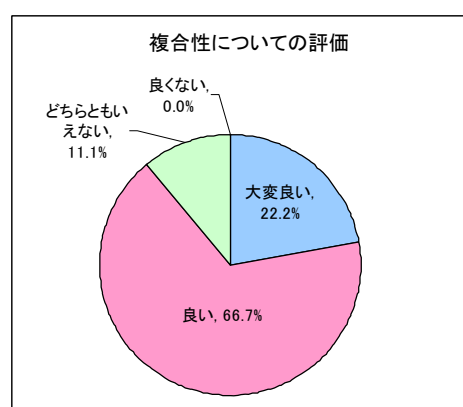
#### ・現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価(9)



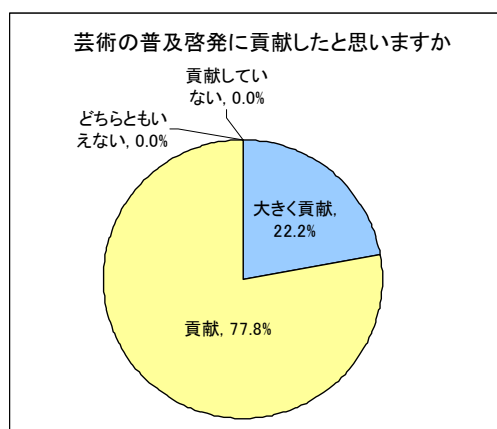
#### ・祝祭的なイベントとしての評価(9)



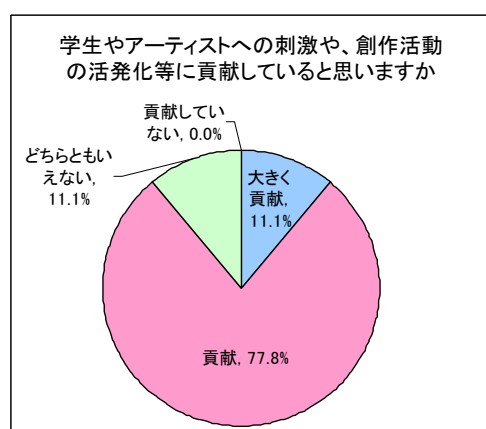
#### ・パフォーマンス・アーツを積極的に取り込む複合性についての評価(9)



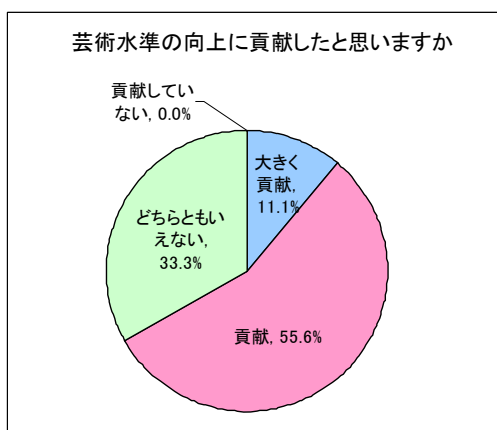
・芸術の普及啓発に貢献したか(9)



・学生やアーティストへの刺激や創作活動の活発化に貢献したか(9)



・わが国の芸術水準の向上に貢献したか(9)



・コメント抜粋

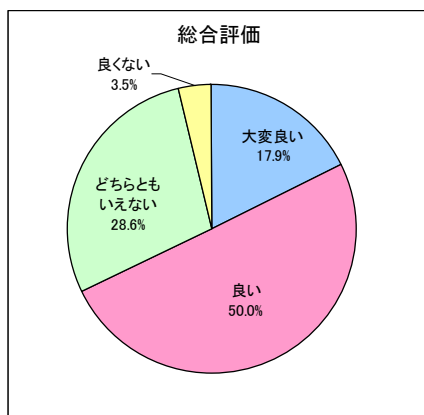
- ・1回だけではなく、継続して企画を充実させていってください。
- ・今回は1回目ということで、非常にわかりやすい内容となっており、広く一般の方も来場するよい祭典となったと思います。今後は地元の作家も掘り下げるなど、コアな見せ方も取り入れていただきたいと思います。
- ・海外からの作家を多く紹介していましたが、「あいち」で行われるイベントとしての特色があまり感じられませんでした。
- ・瀬戸内は直島という強力なコンテンツがあるから成功したともいえる。名古屋市にも県美と市美があるが、両館が常に何か合同企画を行うとすれば、強力な核となりうるかもしれない。
- ・祝祭はやはり都市の中では、その雰囲気は拡散してしまうので難しいかもしれない。
- ・芸術イベントは文化レベル向上に即効性を持たない。費用対効果を求めて次回以降の開催可否を考えるようであるなら、第1回の開催自体を無駄にしてしまう。2010年の第1回に対して県がどのような総括を示すか(具体的には次回以降について)は、行政、政治の水準を示唆すると考えている。

## ■ギャラリー

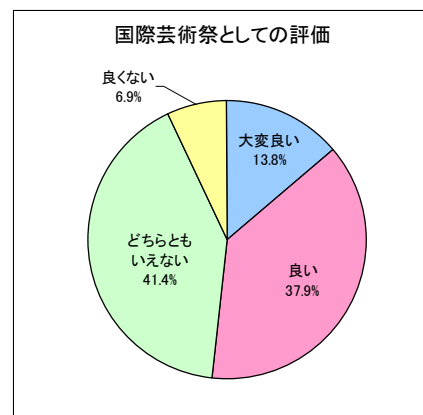
実施時期	12月		
調査対象	県内ギャラリー		
配布・回収方法	郵送		
回収数(回収率)	31 (33.7%)	配布数	92

総合評価(「大変良い」「良い」とを合わせて67.9%)、普及啓発への貢献(「大きく貢献」「貢献」を合わせて68.9%)等が高く評価される一方、わが国の芸術水準の向上に貢献したかという質問に対しては、「大きく貢献」「貢献」を合わせて38.0%にとどまった。

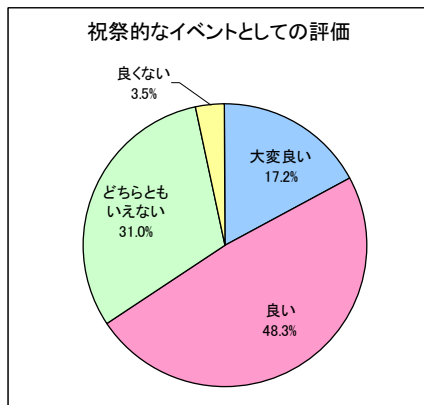
### ・トリエンナーレの総合評価(28)



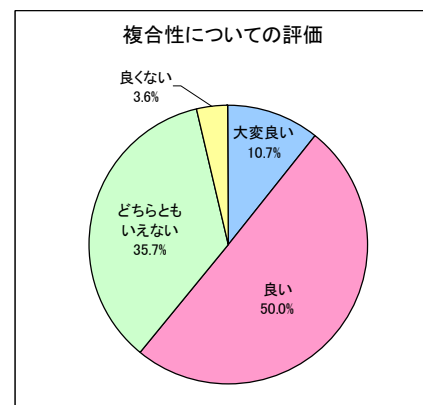
### ・現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価(29)



### ・祝祭的なイベントとしての評価(29)

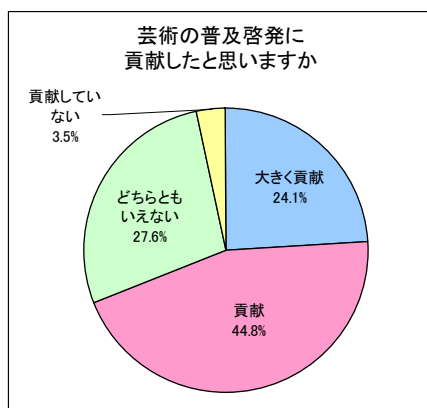


### ・パフォーミング・アーツを積極的に取り込む複合性についての評価(28)

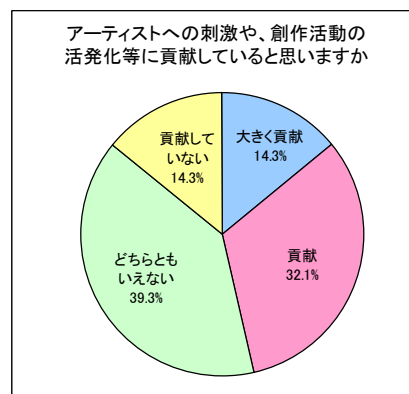




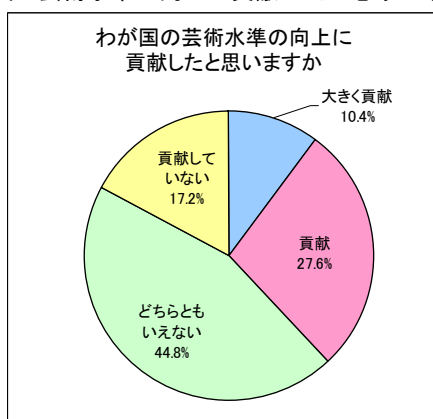
・ 芸術の普及啓発に貢献したか (29)



・ 学生やアーティストへの刺激や創作活動の活発化に貢献したか (28)



・ わが国の芸術水準の向上に貢献したと思うか (29)



・ コメント抜粋

- ・ 楽しいイベントでした。継続的に成長していくのを楽しみにしています。定着を願っております。
- ・ 継続は力。ベネチアを越えるよう期待しています。
- ・ 「あいち」と称する割に私の周りの反応は静かでした。特に一般のお客様(特に年配者)はあまり興味を持っていませんでした。
- ・ 今回は各会場へのアクセスが良かったので回りやすかったです。
- ・ 最も大切なことは継続することです。2 番目には、地域の住民、アーティスト、小中高生などの制作への関わりを増やしてほしいです。
- ・ 長者町のイベントはとても良かったと思います。

## ■中部芸術文化記者クラブ

実施時期	12月～1月		
調査対象	中部芸術文化記者クラブ加盟記者		
配布・回収方法	郵送、ファックス又はメール		
回収数(回収率)	3 (12.5%)	配布数	24

年末・年始というアンケート実施時期から、中部芸術文化記者クラブへのアンケート調査については回収した絶対数が少なかったが、回答があった中ではすべての記者が、総合評価及び現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価について「良い」と評価した。

質 問	大変良い	良い	どちらとも いえない	良くない
総合評価	0	3	0	0
現代芸術の先端的な動向を紹介する国際芸術祭としての評価	0	3	0	0
祝祭的なイベントとしての評価	2	0	1	0
パフォーミング・アーツを積極的に取り込む複合性についての評価	1	2	0	0
芸術の普及啓発に貢献したと思うか	0	2	1	0
わが国の芸術水準の向上に貢献したと思うか	0	1	2	0
地域の芸術水準の向上に貢献したと思うか	0	1	1	0
横浜・瀬戸内など他の芸術祭と比較した時の本芸術祭のレベル	0	1	1	1

自由記述欄における次回も継承すべき点としては、ヴィジュアル・アーツとパフォーミング・アーツとの2本柱、長者町会場のような「まちなか会場」、ベロタクシーやプリウスなどがあった。また改善すべき点としては、「開幕直前まで作品が完成せず取材がしにくかった」との指摘や、「無料公演の増加や入場料金引き下げ」の提案があった。

### ・コメント抜粋

- ・ヴィジュアルアーツとパフォーミングアーツを2本柱で定着させて欲しい。長者町会場のような「まちなか会場」も今度も充実・発展すべき。
- ・会場間を結ぶベロタクシー、プリウスは次回も残すべき。あれがあると「もう一箇所回ってみようか」という気持ちにもなるし、街にも「トリエンナーレをやっている」という空気が満ちる。アクセスの面からだけ考えると、会場を県内全域に広げることは大変かもしれないが「あいち」という名前を冠する以上、それも考えるべきではないか。
- ・無料公演を一般公開用に増やす。入場料金をさらに下げしてみる。不景気だからこそ芸術に救いを求める価値観に注目。
- ・アートで街を元気に、住民を仲良く平和にできたら素晴らしい。芸術祭の評価尺度は来場者数だけでなく、経済効果などいろいろ考えられる。芸どころ名古屋のモノサシを作るのも一案。

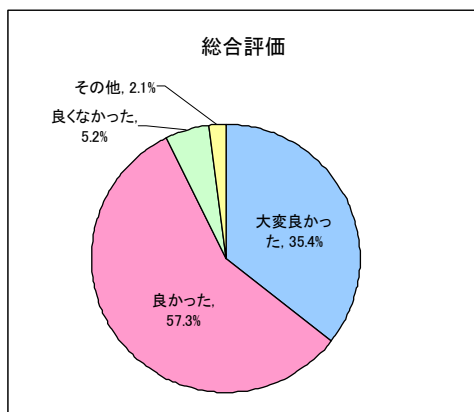
■ 県内の小・中・高等学校、特別支援学校等

実施時期	12月～1月		
調査対象	県内小・中・高等学校、特別支援学校等		
配布・回収方法	郵送、ファックス又はメール		
回収数(回収率)	1,030 (64.1%)	配布数	1,606

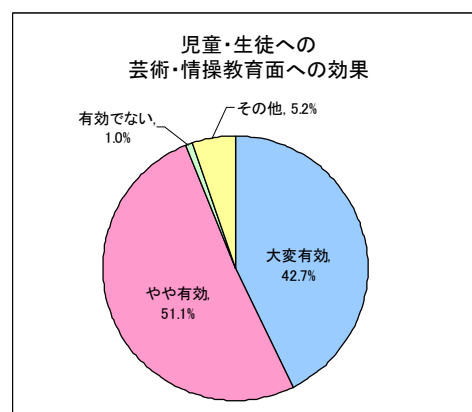
学校向け教育プログラムに参加した学校に総合評価を聞いたところ、92.7%の学校が「大変良かった」「良かった」と回答した。また、児童・生徒への芸術・情操教育面への効果についても、93.8%の学校が「大変有効」「やや有効」と回答し、どのような効果があったと思うかについては、「美しさ等への感性が育まれる」(62.9%)「ものづくりの喜びを味わうきっかけとなる」(49.4%)といった回答が多かった。

次回学校向け教育プログラムがあれば参加するかどうかについては、「ぜひ参加」「多分参加」が合わせて66.3%であり、「参加しない」は1.1%となった。

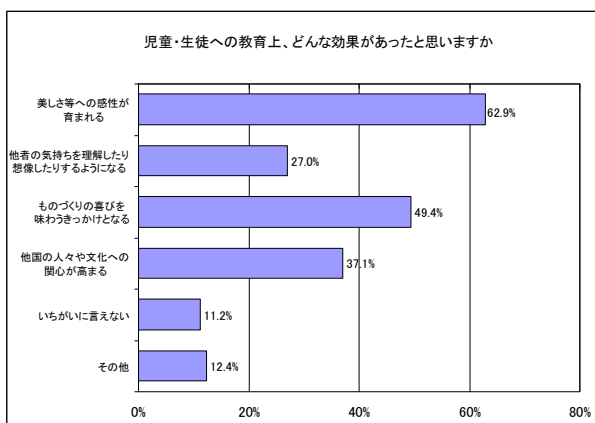
・ 学校向け教育プログラムに参加しての総合評価 (96)  
※参加校のみ



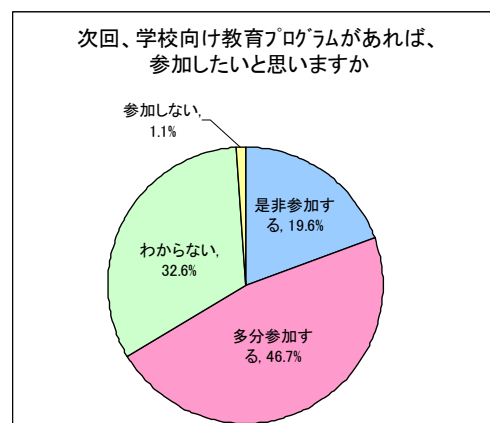
・ 児童・生徒への芸術・情操教育面への効果 (96)  
※参加校のみ



・ どんな効果があったと思うか (178)  
※複数回答、参加校のみ



・ 次回参加したいか (92)  
※参加校のみ



#### ・コメント抜粋

(学校向け教育プログラム参加校の感想)

- ・ガイドの方の説明が大変分かりやすく、生徒たちも真剣に見ていました。ワークシートもあり、鑑賞の視点が定まったので、良かったと思います。
- ・現代アートだけでなく、スタッフによる説明をしていただけて子どもたちにも受けとめやすくありがたかった。
- ・係の方の説明が丁寧で、小学生(4年生)にも分かりやすかった。様々な形の芸術作品に触れ、芸術に対する考え方が広がった。
- ・ボランティアの方々が献身的に対応してくださり、好感が持てた。
- ・街の中での鑑賞はいつもの美術館と違って、のびのびと作品を楽しむことが自然にできていたように感じました。
- ・作品だけでなく、実物をよく観察しないとわからない問題が書かれたワークシートがあったので、生徒の作品を見る目がいつもより真剣でした。
- ・「よくわからないもの」というレッテルを最初から自ら貼って、素通りしていた現代アートの前で立ち止まり、考え思いをめぐらし、改めて自分なりの見解を探させる事を実現できたのが、大きな成果だった。このことは、単にアートとの出会いに限ったことではなく、生徒が対面する様々な日常の出来事や人との出会いにあてはまることだと思う。
- ・生徒の一部でも参加ししやすいように、休みの期間をなるべく多く含む開催期間で実施していただけるとありがたい。映像作品が多く、混雑していたので緩和される手立てをとっていただきたい。
- ・開催期間がとても短い。前年度からプログラムがはっきりすれば5月のGWあたりからでも。少なくとも8月1日からは開催して欲しかった。学校から行ってその後刺激を受けて再度見学へ行きたいと思った生徒がいても、開催期間が無かったのは残念。
- ・作品の質にバラつきがあり、トリエンナーレ全体を評価することが難しい。子供にとってまったくわからない作品も多いため、パンフレット等をさらに工夫してほしい。
- ・生徒に芸術の美しさを伝える作品が少ない。
- ・作品の内容に関しては、子どもたちが理解しづらいものもあるが、現代芸術にふれるよい機会であったと思う。また、キッズトリエンナーレでその場で創作活動ができるのもよかった。
- ・美術を志す生徒にはよい経験になったと思うが、現代美術の啓発という意味では参加しにくい。学校教育としてはそこまでの余裕もないし、意義も認められない。
- ・コンピューターを使ったデザイン画を描くときや図画工作の作品作りに、自分の発想を表現しようと頑張っている児童の姿が見られるようになった。
- ・見学後の感想に、自分達も自由な発想で作品を作りたいという内容が多かった。
- ・臨機応変に対応していただき大変助かりました。ありがとうございました。

なお、参加しなかった学校に対し理由を自由記述によって挙げていただいたところ、「他の学校行事等のために時間が取れなかった」「会場が遠かった」という声が多かった。

#### ・コメント抜粋

(学校向け教育プログラムに参加されなかった学校・参加されなかった理由)

- ・行事が立て込んでおり、時間的な余裕がなかった。
- ・本校の年間行事予定と調整がつかなかった。(芸術鑑賞会は春・秋の年2回予定しているが、日程が合わなかった。また、ちょうど学校祭準備などの他の行事が詰まっていた。)
- ・何をしているのかよく分からない事と、どんな学習に役立つのか分からなかった為。また、文化芸術体験については、本校独自に計画、実施している。
- ・生徒一人ひとりの自主的参加を期待した。
- ・校外学習として参加する時間を確保できない。
- ・本校は交通不便地のため、なかなか校外に出られないため。
- ・地理的に距離があり、参加は無理である。

また、子どもたちに現代アートに親しんでもらうため、アーティストと一緒に創作活動ができるよう、アーティストを7つの小・中学校、高等学校に派遣した。回答のあった5校のうち、「大変良かった」(1校)、「良かった」(2校)との評価を得た。

・コメント抜粋

(現代アーティスト派遣校)

- ・ 時間的・空間的に厳格に固定された日常生活や日常の思考に新鮮な風を通してくれたのが、今回のプログラムだった。日常的でない事象との出会いや外部の人との交流、共感、生徒に今まで経験したことのない高揚感を実現させた。
- ・ いろいろな表現のしかた、考え方があることを知り、児童自身の見方や考え方が広がった。作品づくりを通じて、みんなでつくり上げる喜びを味わった。児童だけでなく、アーティスト、担当の方たちとの交流を職員も楽しんだ。
- ・ 準備の段階で何度も打合せをしていただき、活動が具体的になった。また、当日の準備(材料等)をしっかりしていただき、計画通りに実施することができた。
- ・ 本校では隔年で学芸会、作品展を行っています。2013年は学芸会の年にあたるため、授業数との関係で取り組む事は難しいと思います。
- ・ 内容が教育課程と合わない場合は取り組む事はできません。今回も教育活動とのすり合わせという点では苦勞がありました。

## V-(5) 経済波及効果及びパブリシティ効果

### ■経済波及効果

あいちトリエンナーレ 2010 の開催により、愛知県内において約 78 億円の経済波及効果があったと考えられる。

経済波及効果	経済波及効果の内訳		
	主催者等総支出	第 1 次波及効果	第 2 次波及効果
78.1 億円	18.1 億円	50.7 億円	9.3 億円

主催者等総支出：あいちトリエンナーレ実行委員会の平成 20 年度から平成 22 年度までの支出及び緊急雇用創出事業基金事業によるあいちトリエンナーレ 2010 関連事業の支出との合計  
 第 1 次波及効果：主催者等総支出及び来場者支出(例えば飲食、宿泊、お土産等)による需要発生が、県内のその他産業にもたらす生産誘発額  
 第 2 次波及効果：先の需要の発生により雇用者の所得が生まれるが、その雇用者が消費したことによる生産誘発額

○来場者支出は、会期中に実施した来場者アンケート等を元に、以下のとおり推計した。  
 実来場者数・総来場者数(57.2 万人)を、平均来訪回数(2.78 回)によって除し、約 21 万人と想定。  
 消費金額等・下表のとおり。

項目	金額	1 人当たり平均
飲食	3.5 億円	1,721 円
買い物	7.8 億円	3,767 円
交通費	11.4 億円	5,560 円
宿泊費	3.1 億円	6,721 円
計	25.8 億円	

※宿泊費については、アンケート結果から来場者の約 22%が宿泊者と推計した。

○波及効果は、平成 17 年愛知県産業連関表を用いて算出した。

### ■パブリシティ効果

あいちトリエンナーレ 2010 のメディア報道におけるパブリシティ効果(広告費換算額)は、47 億円以上と算出される。3 年間の開催準備中の広報・PR 支出額が合計約 1.9 億円であることを考えれば、これだけの換算額となるパブリシティ効果があったことの意義は大きいと考えられる。

種別	件数	合計金額(百万円)
新聞	873 件	1,528
テレビ	176 件	3,073
ラジオ	12 件	11
雑誌等	222 件	116
計	1,283 件	4,728

※各メディアへの掲載又は放映と同じ分量を広告出稿した場合の料金を、1 件ごとに算出し、合計している。

※新聞、雑誌等については、平成 20 年 9 月から平成 22 年 12 月の件数  
 ※テレビ、ラジオについては、平成 22 年 8 月から 11 月の件数

## V-(6) 専門家意見

あいちトリエンナーレ 2010 について、有識者に対するヒアリングを行うとともに、専門誌等に掲載されている専門家の意見を抽出した。なお掲載にあたって、敬称は略する。

### 1 有識者ヒアリング結果

9名の有識者※に対し、あいちトリエンナーレ 2010 終了後にヒアリング調査を実施した。

各有識者からは、様々な意見があったが、特に、長者町会場を中心としたまちなか展開及びパフォーマンス・アーツを取り込んだ複合性について、評価する意見が多かった。

一方、準備期間が足りなかったのではないかとの指摘や、運営面、企画に関し次回に向けた改善点の意見もあった。

また、「長い目で見て、まちの歴史に名を残すことが重要」「最低3回、10年は継続しないと、アイデンティティも獲得できない」など、継続することの重要性に関する意見も数多くあった。

なお、有識者ヒアリングについては、以下に主な意見を記載したが、各有識者の意見全文は、あいちトリエンナーレの公式ホームページに掲載した。

※安住恭子(演劇評論家)、延藤安弘(愛知産業大学大学院教授)、北川フラム(アートディレクター)、篠田正浩(元映画監督)、高北幸矢(名古屋造形大学学長)、南條史生(森美術館館長)、西松典宏(元 NHK 日曜美術館プロデューサー)、藤井知昭(愛知芸術文化協会理事長)、藤江充(愛知教育大学教授) (五十音順)

#### ■成果及び評価できる点

##### ○全体

- ・国際美術展の展示の仕方が大変丁寧、作品レベルが総じて高かった。
- ・多ジャンルにわたり、特にパフォーマンス・アーツを積極的に取り入れた点が新機軸だった。

##### ○まちなか展開

- ・長者町の展開は、美術館の枠を超えた印象深いものだった。
- ・まちなかでアートと出会える仕掛けは本当に良かった。若者たちがこんなに集まり、芸術を凝視している姿をみて感動した。
- ・トリエンナーレの開催を通じた人々の交流(プロセス)が、まさにトリエンナーレのアートだったのではないか。
- ・長者町は「アートのロックフェスティバル」となることを期待していたが、長者町はその期待に十分応えてくれた。

##### ○パフォーマンス・アーツ

- ・世界水準のダンス「ローザス」「ヤン・ファーブル」が見られた点が良かった。平田オリザ氏のロボット演劇は、ロボットの先端技術を活用した作品で、パフォーマンス・アーツ全体の呼び水になった。
- ・展示空間(ギャラリーG)でパフォーマンス・アーツを行ったのが良かった。
- ・劇場のほかに、まちなかでも展開した点が良かった。

#### ■課題

##### ○全体

- ・助走期間が足りない気がした。次回は、もっとアーティストを集める時間を確保すべき。
- ・あいちと称する割には名古屋だけの祭典だった印象。
- ・「愛知と世界をつなぐ」仕掛け、県内市町村の巻き込みなどが弱かった。

## ○まちなか展開

- ・長者町は評判が良かったようだが、他の会場と比べキュレーションの力が不足している印象を受けた。
- ・まち全体の祝祭的雰囲気が期待していた程伝わってこなかった。

## ○パフォーマンス・アーツ

- ・演劇的視点が弱かったように思う。
- ・ギャラリーGのパフォーマンス・アーツは、少しコンセプト倒れで、美術的視点からのみ選ばれた作品という感じがした。
- ・愛知発の創造性のある作品を作り、発信する点で弱かった。

## ○共催事業

- ・祝祭ウィークの期間が短かった。
- ・祝祭ウィークは、優れた作品もあったものの、公演の寄せ集めに思えた。コンセプトもしっかり立てて取り組んで欲しかった。

## ■総合評価

- ・第1回目としては大成功と思う。
- ・成功／失敗の判断は最低でも10年後に下すべきだが、それを前提とすると、第1回目としては100点満点で足りないくらいの素晴らしい芸術祭だった。

※点数を答えた有識者は、100点満点で75点～120点という回答

- ・本芸術祭は、県民参加も多く、芸術の視野を高める極めて貴重な機会だった。

## 2 専門誌等記事

雑誌・新聞等では、あいちトリエンナーレ2010に関し多くの記事が掲載された(掲載件数については、109ページ「パブリシティ効果」参照)。

このうち、美術等の専門誌、新聞の評論、ウェブなどから意見を抽出した。

全体としてみると、「国際芸術祭としてのクオリティ」「独自性(複合性、まちなか展開)」「祝祭性」などに関し、高い評価を得た。以下は、記事の抜粋である。

## ■国際美術展

- ・(あいちの特色として)一つには参加作家の多様性とバランスの良さにある。(窪田研二・インディペンデントキュレーター・美術手帖)
- ・One characteristic of the Aichi Triennale was its diversity.(あいちトリエンナーレの一つの特色は、「多様性」であった。)(中略)Instead of simply putting their completed artworks on display in galleries, many artists created new works live before the public or gave street performances, generating excitement that enveloped the city.(単にギャラリーに完成した作品を展示するだけでなく、多くのアーティストが新作の制作公開やストリート・パフォーマンスを行うなど、都市全体を包み込むような興奮が沸き起こった。)(高階秀爾・大原美術館館長・Japan Echo Web ※訳は実行委員会事務局)
- ・(渡辺英司「蝶瞰図」に)「ワー、おうちもこんなにしたらおもしろいね」という女の子の声。(中略)この子のような驚きの声に出会えた経験をここに書きとどめることが出来たのも、成果のたしかな証の一つであると思いたい。(馬場駿吉・名古屋ボストン美術館館長・AAC)
- ・展示内容が両美術館とも本当に見応えがある。(中略)玄人からアート初心者まで楽しめるクオリティの高さがある。／「ここでしかないもの」「初めて挑戦したもの」ってどれだけあるのだろう、そこに若干物足りなさが残った。(宮本初音・アートコーディネーター・西日本新聞)



- ・抜群に面白かった。(中略)地域のしがらみもおもねりもなく、イマジネーション全開で好きなことをやっている。まさに祝祭。(村田真・美術ジャーナリスト・北海道新聞)／ぼくの知る限り、これまで日本で開かれた国際展のなかで最良のものだといっておこう。ぜひ見に行くべし。(村田真・artscape レビュー)
- ・国際美術展は一般の人にも楽しめる内容だった。現代美術の敷居を低くしファンを増やしたのではないか。(北川フラム・アートディレクター・朝日新聞)
- ・全体的に難解な作品は少なく、幅広い層に現代美術の面白さを見せようとする意向がうかがえる。(毎日新聞)
- ・実験的な要素はほとんどなかった。(小崎哲哉・京都造形芸術大学客員教授・REALTOKYO)

## ■パフォーミング・アーツ

- ・ロボット演劇が愛知から世界へ羽ばたく瞬間に立ち会えるのはトリエンナーレの醍醐味である。(毎日新聞)
- ・主催事業のヤン・ファールブルやローザス、チェルフィッチュの劇場公演は「世界最先端」にふさわしかった。(中略)だが全体的には前衛的で実験的な作品があまりにも多かった。(中日新聞)
- ・複合舞台芸術の元祖ともいえるオペラ「ホフマン物語」は深い味わいだった。古典の魅力に新たな息吹を吹き込み、絶賛を浴びた。(中日新聞)

## ■キッズトリエンナーレ

- ・国際芸術祭は(中略)参加意識が高まる機能がある。小さな子どもがキッズトリエンナーレなどでアートを体験していた姿もほほえましかった。(中日新聞)

## ■祝祭性

- ・祝祭と呼ぶにふさわしい雰囲気が醸成されている。(中略)しばしば難解と言われる現代美術の敷居を低くし、多くの市民が気軽に作品に接することのできる機会はやはり貴重だ。(暮沢剛巳・美術評論家・中日新聞)

## ■あいちの独自性

### ○複合性

- ・美術と音楽、舞踊など芸術分野が融合もしている。(中略)「あいち」は芸術でその先端にあるのでは。(近藤誠一・文化庁長官・中日新聞)
- ・内外に国際美術展がひしめきあう中で「あいち」は、美術とパフォーミング・アーツのジャンル横断という方向性を打ち出した。(朝日新聞)
- ・ヴィジュアル・アーツに加え、パフォーミング・アーツおよび両者の境界線上にある表現も意欲的に紹介される。(窪田研二・インディペンデントキュレーター・美術手帖)
- ・(愛知芸術文化センターの)複合機能が統一テーマを持ってフルに活用されたのは、今回が初めてだ。(中日新聞)
- ・ダンスや演劇の公演も話題作をそろえている。(中略)現代美術だけに限定されない間口の広さが観客から受け入れられていると言えそうだ。(読売新聞)

### ○まちなか展開

- ・建畠の仕組んだ「まちなかアート」により、日増しにトリエンナーレの認知度は高まっている。(AERA)
- ・長者町会場には、歴史性や環境をうまく取り入れた作品が多かった。(毎日新聞)
- ・あいちトリエンナーレが他の都市型の現代美術の祭典と決定的に異なるのが、既存の街をそのまま展示会場にした長者町会場だ。(中略)街の歴史を追体験できるのは実に楽しい。この意味で本展が

掲げた「都市の祝祭」は成功している。(中日新聞)

#### ■開催場所

- ・会場配置がコンパクトで歩いて回れたのも良かった。(暮沢剛巳・美術評論家・朝日新聞)

#### ■地元との連携

- ・一番変わったのはトリエンナーレにかかわった人たちの意識だろう。(中略)芽生えたこの思いを忘れさせることなく、どう三年後までつないでいくかだ。(中日新聞)
- ・(祝祭ウィークは)枠を打ち破る意欲作がめじろ押しだったが、挑戦自体が目標となった観も。日程も詰め込み過ぎで(中略)客の奪い合いも起きた。(中日新聞)
- ・「あいち」を名乗るなら、名古屋市だけではなくて、県内各地の自治体との連携をもっと進めては。(中日新聞)

## あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

### 事務局長

大野明彦(愛知芸術文化センター長)

### 事務局次長

横山 譲(愛知県国際芸術祭推進室長)

### スタッフ

岩田道人、陣内さゆり、菊池 学、川口佐織、米本幸弘、岡田邦裕、加藤祐貴、井上知美、  
芦部玲奈、谷口 静、天野真弓、大矢考子、清水早代、  
中野充康、権田裕徳、山口智絵子、小柳津彰啓、吉田隆之、山川高英、武田友理、  
岡村由佳子、朝比育子、岡谷まりえ、児玉美香、前 道代、  
中野文夫、芦沢典幸、曾我浩之、渡辺展仁、石黒弘喜、松村健一、鋤柄宗広、三隅彰子、  
永井里沙、大野明美、吉良麻由美、鈴木裕子(以上、愛知県)  
梶田富子(名古屋市) 太田枝里(財団法人名古屋市文化振興事業団)  
西村知余子(刈谷市) 木下奈美(一色町)  
松岡裕佑(国際交流基金)  
西山裕子、市川靖子、野田智子、岩佐弘美、市原萌絵(以上、ナンジョウアンドアソシエイツ)

## あいちトリエンナーレ 2010 開催報告書

平成 23 年 3 月

編集：あいちトリエンナーレ実行委員会事務局

発行：あいちトリエンナーレ実行委員会



あいちトリエンナーレ実行委員会

(愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内)

〒461-8525

愛知県名古屋市東区東桜 1-13-2 愛知芸術文化センター 6 階

Tel:052-971-6111 Fax:052-971-6115

<http://aichitriennale.jp/>

[geijutsusai@pref.aichi.lg.jp](mailto:geijutsusai@pref.aichi.lg.jp)